

三木市と株式会社アシックスとの包括連携協定書

三木市（以下「甲」という。）と株式会社アシックス（以下「乙」という。）は、相互の連携を強化することについて、以下のとおり地方創生に係る包括連携協定（以下「協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲と乙が、緊密な相互連携と協働による活動を推進し、地域のニーズに迅速かつ適切に対応し、地方創生の更なる推進に向け、スポーツを軸とした先進デジタル技術の活用によるデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という。）の推進により、市民の健康増進や市民サービスの向上を図ることを目的とする。

（連携事項）

第2条 甲と乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携し、協働する。

- (1) IoT 技術を活用した運動促進施策の実証に関する事
- (2) 見守り等の安全な生活実現のための DX 技術の実証に関する事
- (3) 小学生から高齢者まで、DX 技術を体験することのできる機会の提供に関する事
- (4) DX 技術の活用による多世代が一体となったにぎわいのあるコミュニティづくりに関する事

2 前項各号に掲げる事項を効果的に実施するため、甲及び乙は定期的に協議を行うものとする。また、具体的な実施事項については、甲及び乙の合意の上、決定する。

（有効期間）

第3条 本協定の有効期間は、締結の日から1年間とする。ただし、有効期間が満了する日の30日前までに双方のいずれからも書面による協定解除の申入れがない場合は、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

（協定の変更）

第4条 甲又は乙のいずれかが、本協定の内容変更を申し出たときは、その都度協議の上、必要な変更を行うものとする。

（守秘義務）

第5条 甲及び乙は、本協定書に基づく活動において、相手方から知り得た秘密事項について、本協定の有効期間中又は有効期間終了後を問わず、第三者に対し開示又は漏洩してはならない。

ただし、事前に相手方の書面による承諾を得た場合は、この限りではない。
(その他)

第6条 本協定に定めのない事項又は本協定の内容に疑義等が生じたときは、その都度、甲と乙が協議して定めるものとする。

本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙それぞれ記名押印の上、各自その1通を保有するものとする。

令和3年10月21日